㊲青森駅周辺整備推進事業

受賞機関　青森市 都市整備部 都市政策課

キーワード　青森駅周辺におけるバリアフリー対策と交通結節機能強化、回遊とにぎわいの創出、立体道路制度、官民連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

青森駅自由通路の整備により、鉄道で分断された東西市街地をバリアフリーで結び、冬季でも安心して利用できる歩行空間を確保。さらに、青森市・青森県・青森商工会議所・JR東日本の四者連携協定に基づき、ソフト面での継続的な取組を実施している点が評価された。

1．はじめに

青森市の玄関口であり、にぎわいの拠点である青森駅周辺地区は、市民・観光客がスムーズに各地へ移動できる交通ターミナルとしての機能を備えており、多くの都市機能が集積している一方で、鉄道による市街地分断の解消に向けた東西アクセスの向上が長年の課題であった。

このため、本市では、冬季でも安心して自由に往来できる歩行空間を確保するために、バリアフリーに対応した自由通路等の整備を進めてきた。また、事業着手を契機として、青森市・青森県・青森商工会議所・JR東日本の四者が相互に連携・協力し、青森駅周辺の活性化やより一層のにぎわい創出に向けた取組を推進するため「青森駅周辺のまちづくりに関する連携協定（四者連携協定）」を締結した。

2．事業の概要

青森駅自由通路は、延長約170m、幅員約６m（東口側の駅ビル内（延長約30m）は幅員約10m）で、東口と西口にそれぞれエレベーター・エスカレーターを設置し、令和３年３月に部分供用を開始した。令和６年３月には、東口側の駅ビル内の開通により全面供用となった。自由通路の壁面は、青森をイメージできるよう「リンゴの木箱」を積み上げたデザインとし、併せて市民の作品展示スペースを設けることで、供用以来、多くの市民が親しみを持って利用している。

青森駅自由通路　内観

また、青森駅西口駅前広場は、これまでの西口駅前の輻輳している交通の整序を図り、自由通路と一体となって多様な交通手段に対応できるよう交通結節機能を強化した。バス・タクシー乗降場、駐車場、駐輪場、バリアフリー対応トイレ等を整備し、令和５年３月に供用開始した。

3．事業の成果

自由通路及び西口駅前広場のハード整備を契機として、青森駅周辺では様々な波及効果が発現している。

まず、四者連携協定に基づく取組として、令和６年４月には、旧青森駅東口駅舎跡地においてJR東日本による駅ビル(商業施設、ホテル、県・市の行政施設が入居)が完成し、青森駅周辺のにぎわいづくりに大きく寄与している。

ソフト面では、自由通路の利活用を目的とした社会実験として、自由通路をカフェと見立てたイベントを開催し、リンゴの木箱をモチーフにした休憩用ベンチの設置等を行うことにより、多くの市民が交流し、滞在する姿が見られ、青森駅周辺のにぎわい創出に大きな効果があることが確認されている。

社会実験の状況

4．おわりに

現在、青森駅周辺地区では、四者連携協定の関係者をはじめ、様々な関係者が集まり、同地区の持つポテンシャルや課題を共有し、未来を語る勉強会の開催など、新たなまちづくりに向けた動きが活発化している。

このように、本事業を契機に広がった官民連携の輪が、事業の最も大きな成果であると感じている。